
COVID-19による学校での規制と子供の精神状態

2023年9月21日

高久玲音（一橋大学）・正箱尚久（京都大学）
仲田泰祐・嶋澤慶・大島侑真（東京大学）

背景

- コロナ禍では、子供たちの活動に対して様々な規制が各学校で行われた
 - 黙食（食事中の会話の禁止）
 - 音楽の授業でのマスク着用
 - 修学旅行など学校主催のイベントの中止
- 規制を弱め始めた国々が増えてきた2021年以降も、日本では規制が続いた

分析

- **学校での規制による子供の精神状態への影響を調査**
 - 過去の研究では、2020年3月から5月にとられた休校措置による子供への影響に焦点が置かれている
 - 継続的な学校での規制による子供の精神状態への影響に関して調査した研究はほとんどない
- **オンラインでのアンケート結果をもとに、多変量ロジスティック回帰分析を行った**
 - アンケート調査は2023年3月15日から20日にかけて行われ、最終学年の生徒1795人が回答した
 - 2020年から2022年にかけて、学校行事が中止されたかどうかについて質問した
 - 2023年3月時点での友人関係・学校生活の満足度、精神状態や健康状態について質問した

重要ポイント

- 学校行事の中止と子供のうつ病傾向に関連があることが確認された
- 学校行事の中止と友人関係・学校生活への満足度の低下に関連があることが確認された
- 以上のことから、継続的な学校での規制が子供たちへの精神状態に負の影響を与えたことが示唆される
- 性別や部活動所属の有無など、子供の属性によって影響の程度が異なることも明らかになった

回答者の属性および特徴の調査方法

- 年齢・性別・都道府県別居住地などの基本情報のほか、部活動への所属有無を質問
- 以下の規制について0（とても効果的）～6（効果的でなかった）の7段階で回答者の主観的評価を質問
 1. 昼食時間中の黙食
 2. 学校内でのマスク着用
 3. 遠足の中止
 4. 部活の中止
 5. 学校行事の中止
- 5項目での主観的評価の合計が中央値（13）より大きい回答者とそれ以外で分類

回答者の属性および特徴の調査結果

| 項目 | 回答 | 回答数（割合） |
|-----------------|-----|--------------------|
| 性別 | 男子 | 912 (50.8%) |
| | 女子 | 883 (49.2%) |
| 学校での規制に関する主観的評価 | | 平均:12.4 (IQR 9–15) |
| 部活動に所属している | はい | 780 (43.5%) |
| | いいえ | 1015 (56.5%) |
| 小学校6年生 | | 629 (35.0%) |
| 中学校3年生 | | 605 (33.7%) |
| 高校3年生 | | 561 (31.3%) |

学校行事の中止割合の調査方法

- 13種類の学校行事について開催されたかどうか質問
 - 修学旅行については、以下について質問
 - COVID-19により中止になったか、そうでないか
 - 修学旅行以外の学校行事については、以下について質問
 - 開催された場合→回答者自身が行事に参加したかどうか
 - 開催されなかった場合→パンデミック前でも開催されていたかどうか
- 黙食については、2023年3月時点で行われていたかを質問

学校行事の中止割合の調査結果

| 項目 | 回答 | 回答数（割合） |
|------------------------|-----|--------------|
| 修学旅行の実施有無 | 中止 | 301 (16.7%) |
| | 実施 | 1494 (83.2%) |
| 学校行事の中止割合: 2020年～2022年 | | 34.8% |
| 学校行事の中止割合: 2020年 | | 42.1% |
| 学校行事の中止割合: 2021年 | | 38.6% |
| 学校行事の中止割合: 2022年 | | 19.9% |
| 2023年3月時点で黙食が行われていた | はい | 1269 (70.7%) |
| | いいえ | 526 (29.3%) |

精神状態、満足度の調査方法

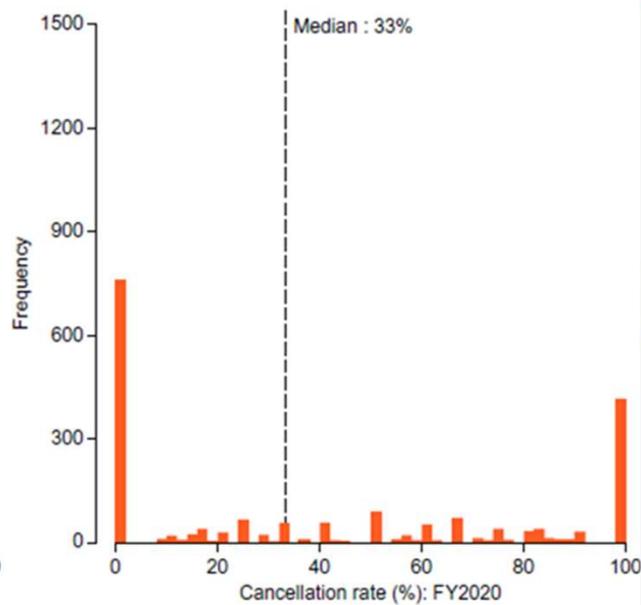
- うつ病傾向については日本語版のWHO-5 indexを用いて算出
 - 5つの精神状態や健康に関する質問より構成
 - それぞれ0（とても悪い）～5（とても良い）までの6段階で回答
 - 合計スコアが13未満か1つ以上の質問で0か1の回答が見られた場合、「うつ病傾向あり」と判断
- 満足度調査については、①学校生活、②友人関係について5段階で回答
 - 「満足度」：「とても満足している」と回答した場合
 - 「不満足度」：「全く満足していない」と回答した場合

子供たちの精神状態および満足度の調査結果

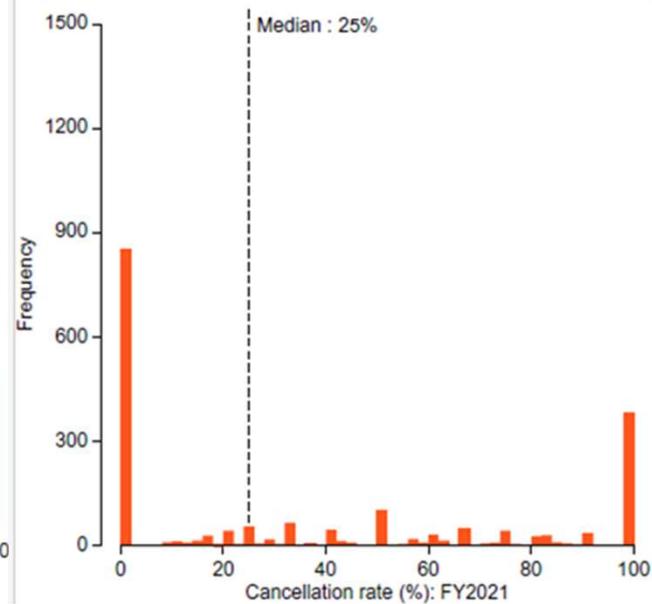
| 項目 | 回答 | 回答数（割合） |
|---|-----|--------------|
| WHO-5 index score below the clinical cutoff value | はい | 343 (19.1%) |
| | いいえ | 1452 (80.9%) |
| 学校生活に「全く満足していない」 | はい | 240 (13.4%) |
| | いいえ | 1555 (86.6%) |
| 友人関係に「全く満足していない」 | はい | 143 (8.0%) |
| | いいえ | 1652 (92.0%) |
| 学校生活に「とても満足している」 | はい | 202 (11.3%) |
| | いいえ | 1593 (88.7%) |
| 友人関係に「とても満足している」 | はい | 307 (17.1%) |
| | いいえ | 1488 (82.9%) |

年度別の学校行事の中止割合

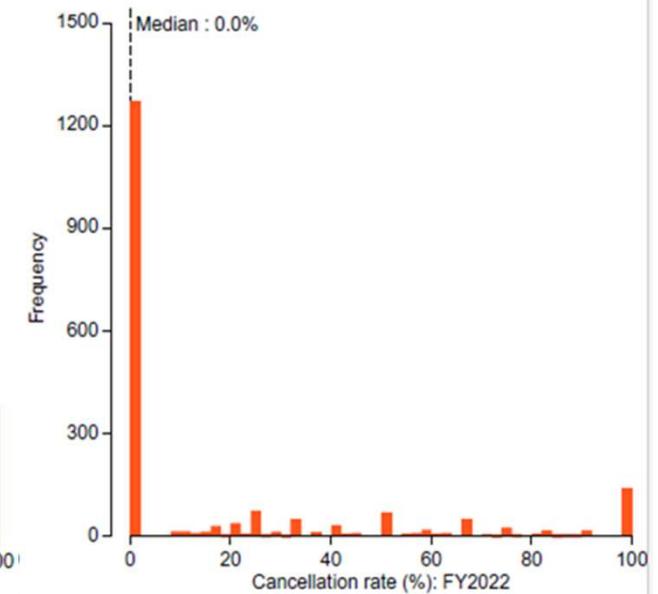
(b) FY2020



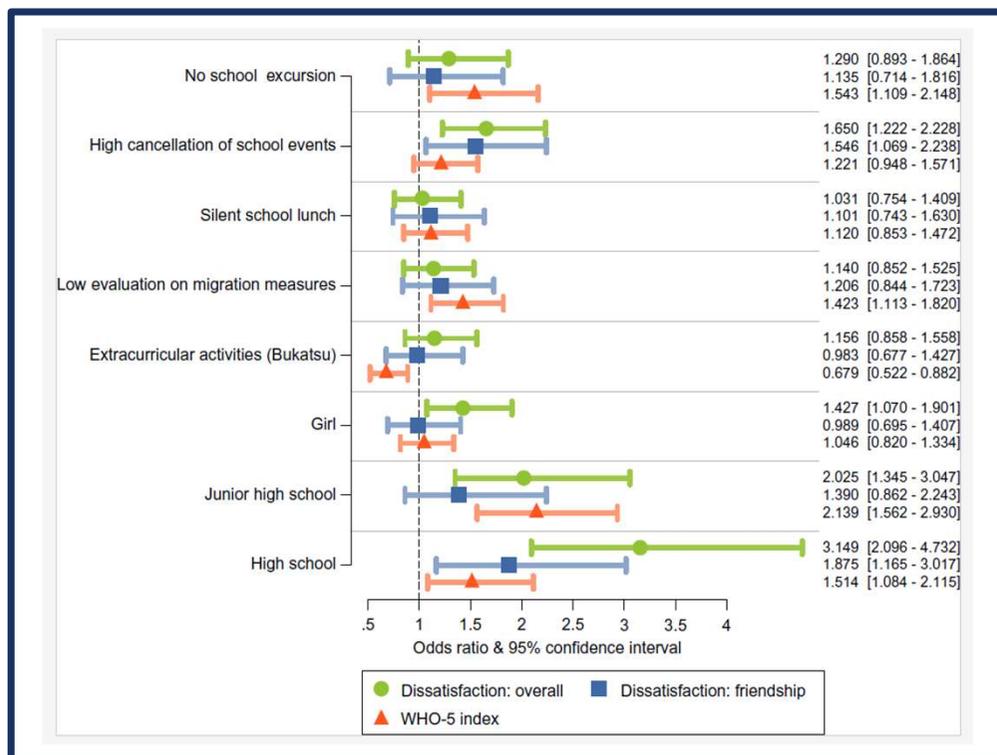
(c) FY2021



(d) FY2022

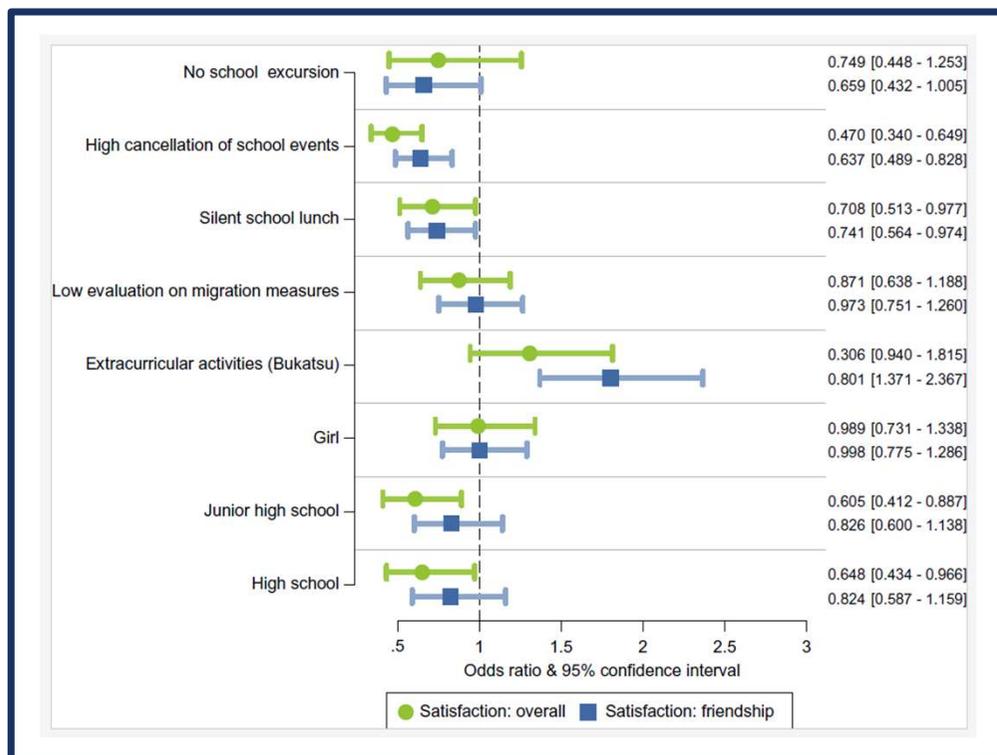


学校生活への不満やうつ病傾向とその要因分析



- 修学旅行が中止であったサンプル
 - うつ病傾向が確認できる
- 学校行事の中止割合が高いサンプル
 - 学校生活、友人関係ともに不満足度が有意に高い
- 規制の効果に懐疑的な子供ほど高いうつ病傾向
 - 特に、男子と部活に所属していない子供にて顕著

学校生活と友人関係への満足度とその要因分析

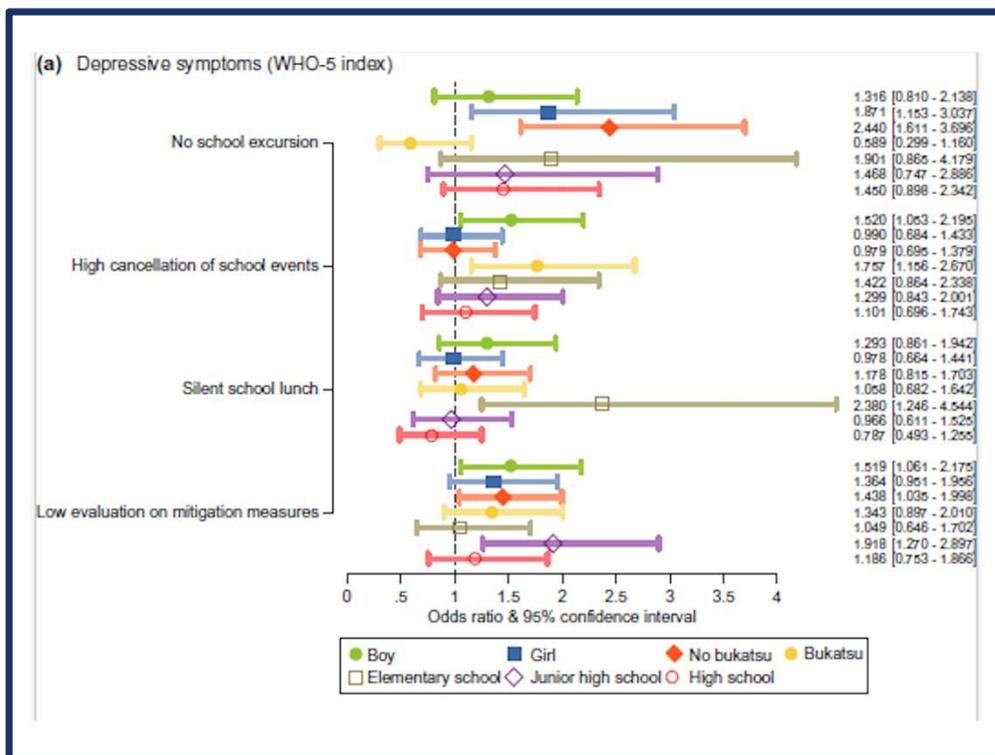


- 学校行事の中止割合が高いサンプル
 - 学校生活、友人関係に「とても満足している」と回答する確率が有意に低い

- 2023年3月時点で黙食を行っていたサンプル
 - 「とても満足している」とする回答の減少と関連

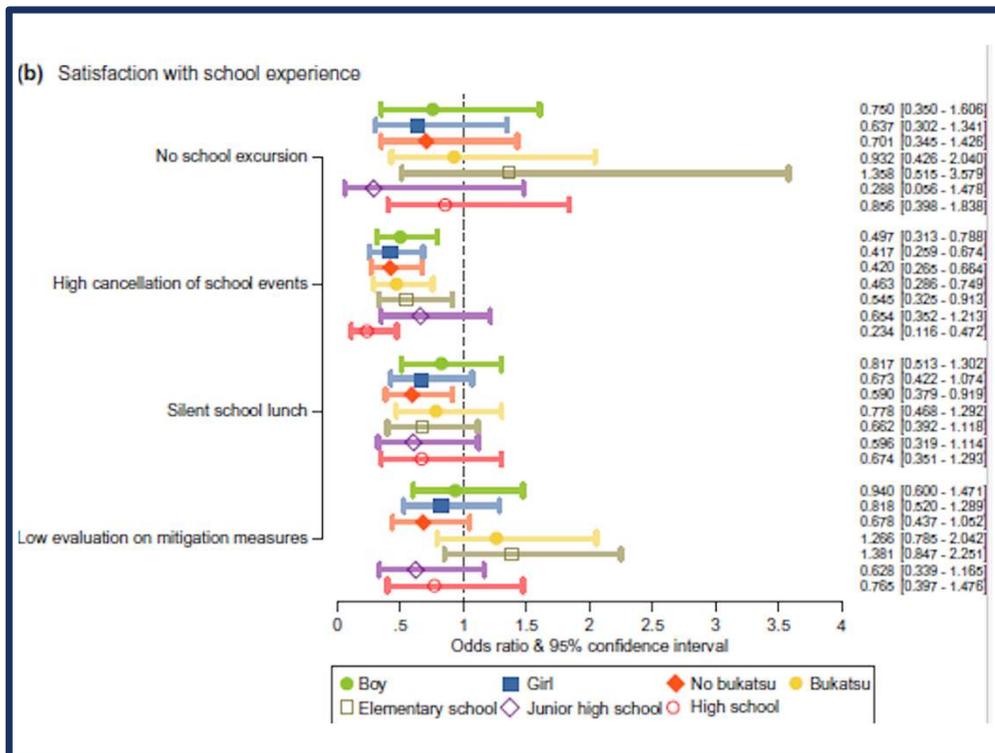
- 部活動に参加していたサンプル
 - 友人関係への満足度が大幅に高くなる
 - 子供たちの友人関係の構築に部活動が重要であることを示唆

属性別うつ病傾向とその要因分析



- 修学旅行が中止であったサンプル
 - 女子と部活動に所属していない子供でうつ病傾向
 - 親密さや支えが重要視される女子の友人関係と関連
 - 部活動への所属の有無が友人関係の構築に影響か
- 高い学校行事の中止割合であったサンプル
 - 男子と部活動に所属する子供たちでうつ病傾向
- 2023年3月時点で黙食を行っていたサンプル
 - 小学生でうつ病傾向がみられる

属性別学校生活への満足度とその要因分析



- 学校行事の中止割合が高かったサンプル
 - 属性を問わず、学校生活への満足度が低い

- Taisuke Nakata is supported by JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI), Project Number 22H04927, Research Institute of Science and Technology for Society at Japan Science and Technology Agency (21459724), COVID-19 AI and Simulation Project (run by Mitsubishi Research Institute and commissioned by Cabinet Secretariat, the Government of Japan), Center for Advanced Research in Finance at University of Tokyo, and Tokyo Center for Economic Research.

- **過去・現在の政策分析と研究**

- <https://www.bicea.e.u-tokyo.ac.jp/>
- <https://covid19outputjapan.github.io/JP/resources.html>